

遼寧省朝陽地区隋唐墓副葬品の調査

遼寧省文物考古研究所との共同研究では、2009年度も例年通り3月に遼寧省瀋陽市の遼寧省文物考古研究所で朝陽地区隋唐墓の副葬品の調査をおこないました。今回は3月9日から16日までの8日間、調査とともに研究発表もおこなってきました。調査者は、所外の研究者も含めて計6名でした。

今回の調査対象は遼寧省文物考古研究所などによって朝陽市で発掘調査された、楊和墓出土陶俑を主体として、中山村唐墓出土彩繪俑、紡績路立体交差橋墓出土俑、双塔区小区点式楼出土銅製品等の副葬品です。特に陶俑と陶磁器を中心に、全体で63件の副葬品を調査しました。遺物の撮影、熟覧・調書作成、実測、3Dデジタイザによる計測・データ採取など、考古学的調査が主体でした。既に陶俑等では型作りの技法について詳細に調べ、規格性の高さを明らかにしてきましたが、今回、鉄製鋏についても高い規格性を確かめることができました。

2010年度は、調査報告・研究論集の作成に取りかかる予定ですが、そのための中間報告とも言える研究発表を3月15日に文物考古研究所でおこないました。日本側からは3名の研究者がそれぞれ、「遼寧省出土の釉陶」「探査と3D計測」「唐代鉄製鋏の製作技法」をテーマに講演しました。

それぞれの講演後、活発な質疑応答がなされましたが、特に3D計測などの最新の調査技術については、中国側研究者に強い印象を与えたようで、大きな反響がありました。今後も様々な機会を捉えて、本研究所のもっている調査技術などについても、積極的に紹介することが重要だと改めて感じました。

(都城発掘調査部 小池 伸彦)



探査と3D計測についての研究発表